

同志社大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科
2012年度専任教員研究業績一覧

C

Gavin James Campbell

・書評

“Dixie Dharma: Inside a Buddhist Temple in the American South,” *Doshisha American Studies*, vol.49: 87-91.

G

Anne Gonon

・学会発表

“Entendre la souffrance des enfants ? La loi relative a la prevention de la maltraitance infantile”(子供の苦痛に耳を傾ける—児童虐待の防止等に関する法律), 2012年12月20日, Toulouse 第二大学, フランス日本学会。

・講演

« Une notion onusienne dans la politique japonaise – la sécurité humaine », EHESS, パリ, 2013年3月7日。

巖 善平

・共著

「第1章 労働需給と賃金上昇—現状と展望」渡辺利夫監修・大橋英夫編『変貌する中国経済と日系企業の役割』勁草書房, 2012年7月, pp. 3-25。

「第3章 農民工一定住か, それとも帰郷か?」毛利和子・園田茂人編『中国問題—キーワードで読み解く』東京大学出版会, 2012年9月, pp. 61-87。

「第7章 中国の三農問題と都市農村格差」横田伸子他編『東アジアの格差社会』御茶の水書房, 2012年9月, pp. 115-129。

「第9章 流動人口の住宅問題—上海市の事例を中心に」南亮進・牧野文夫編『中国経済の転換点』東洋経済新報社, 2013年3月, pp. 173-194。

・論文

「最新の上海市人口統計からみる二重社会構造」『東亜』, 2012年6月号, No. 540, pp. 90-100。

「中小学男生相対弱体化問題研究—以上海為例」(周海旺・巖善平・周安芝共著)『社会科学』(上海社会科学院), 2012年12月, pp. 84-93。

「中国における少子高齢化とその社会経済への影響—人口センサスに基づく実証分析」『JRI レビュー』(日本総研)No. 4, 2013年3月, pp. 21-41。

・その他

「中国動態・大学も大衆化時代, 経営難で自転車操業も」『週刊・東洋経済』, 2012年5月

12 日, pp. 110-111。

「中国動態・『成長のための成長』が限界を迎えた中国経済」『週刊・東洋経済』, 2012 年 6 月 16 日, pp. 110-111。

「中国動態・『爆食』は脅威にあらず, 食糧自給の可能性は高い」『週刊・東洋経済』, 2012 年 7 月 21 日, pp. 102-103。

「『中国は人手不足』のウソ, 農村には余剰労働力がある」『週刊・東洋経済』, 2012 年 9 月 29 日, pp. 60-61。

「中国動態・次期指導部は博士の集団, 変わる中国の指導者像」『週刊・東洋経済』, 2012 年 9 月 1 日, pp. 122-123。

「中国動態・尖閣国有化は中国人の『感情記憶』を刺激した」『週刊・東洋経済』, 2012 年 10 月 6 日, pp. 102-103。

「権力移行期の中国・下 7%成長の継続は可能」『日本経済新聞・経済教室』, 2012 年 11 月 22 日。

「中国動態・絶対権力握る共産党は自らを改革できるか」『週刊・東洋経済』, 2012 年 11 月 3 日, pp. 98-99。

「中国動態・リーダーが代わっても, 『心の溝』は埋まらない」『週刊・東洋経済』, 2013 年 1 月 19 日, pp. 96-97。

「書評・銭小平編著『中国農業のゆくえ』」『農業経済研究』第 84 巻第 3 号, 2012 年 12 月, pp. 193-195。

「中国動態・『保守派勝利』の陰で進む共産党人事の着実な進歩」『週刊・東洋経済』, 2012 年 12 月 8 日, pp. 102-103。

「中国動態・固定化される所得格差, 体制内改革は限界に」『週刊・東洋経済』, 2013 年 02 月 23 日, pp. 108-109。

「中国の少子高齢化を考える」『天地人』No. 20, 2013 年 2 月, pp. 12-13。

「大都市における共産党員の諸相および黨員機能の転換—1997 年・2008 年天津市民調査に基づいて」『調和社会の政治学—調和的な発展政策の形成と執行の総合的研究』(代表者・高原明生, 東京大学大学院法学研究科) 2013 年 3 月, pp. 149-169。

「世界の工場を支える農民工の働きと暮らし」『労働調査』(労働調査協議会), 2013 年 3 月, pp. 4-8。

「中国動態・急激に進む少子高齢化, 限界迎えた 1 人っ子政策」『週刊・東洋経済』, 2013 年 3 月 30 日, pp. 142-143。

・学会報告等

「農家世帯員の教育形成とそのメカニズム: 農家調査のマイクロデータに基づく」, 2012 年度中国経済学会大会, 2012 年 6 月 24 日(立正大学)。

「中国における人口移動, 少子高齢化およびその社会経済的影響」, 総合地球環境学研究所「中国環境問題研究拠点研究会」, 2012 年 10 月 11 日(京都市)。

「現代アジア農村の課題—農家調査からの視点」, 2012 年アジア政経学会大会(分科会 6 討論者), 2012 年 10 月 14 日(関西学院大学)。

「蘇南農村的社会経済変遷—徙人口, 就業与流動視角考察 X 村的半個世紀」, 東洋文庫中国研究会, 2013 年 2 月 17 日(湘南国際村)。

「第11会場 3つの個別報告」座長, 2013年度日本農業経済学会大会, 2013年3月30日(東京農業大学)。

「中国的労働力短缺与工資上漲」, 第5回世界中国学論壇, 2013年3月24日(中国・上海市)。

・社会活動

「中国の食糧問題とその日本への影響」, ひょうご講座「アジアの時代と日中関係」, 2012年10月2日(神戸市)。

「日中の経済関係と国民感情」, 第6回日中共同声明40周年記念コロキウム, 2012年11月27日(大阪大学)。

「世界の工場を支える労働者の働きと暮らし—市民社会への移行を急ぐ中国の素顔と課題」, 和泉市立人権文化センター, 2012年11月26日(和泉市)。

「中国経済の今とこれから」, SMBC親睦会, 2012年11月19日(大阪市)。

「中国における少子高齢化およびその社会経済的影響」, 日本総研・記者勉強会, 2013年3月15日(東京都)。

I

位田隆一

・共著

畔柳達雄著『医療と法の交錯—医療倫理・医療紛争の解決』商事法務, 2012年11月, 「位田隆一・畔柳達雄・前田順司・林道晴, 座談会: 医療倫理に関する論説の現代的意義」, 3-59頁。

Brigitte Feuillet-Liger, Ryuichi Ida, Thérèse Callus(dir.), *Adolescent, Autonomy and Medical Treatment*, Bruylant, 2012, 編集及び“Adolescents and medical treatment in Japan”執筆, 207-217頁。

・論文

「ヘルシンキ宣言と国内法規範」第32回臨床薬理学会年会 2011年12月1-3日(浜松)記録『臨床薬理』第43巻4号, 日本臨床薬理学会, 2012年7月, 247-248ページ。

・その他

「iPS細胞を用いる再生医療の生命倫理」『中日新聞』中日新聞社, 2012年10月26日夕刊。

「国際連合」『現代用語の基礎知識 2013』自由国民社, 2013年1月。

・学会報告

「国連の活動の展開と課題」座長, 国際法協会日本支部 2012年度研究大会, 東京大学, 東京都, 2012年4月21日。

“Session1: Rethinking Non-Intervention”座長及び部会報告, Doshisha 2nd International Conference on Humanitarian Intervention “Asian Perspectives on Humanitarian Intervention in the 21st Century”, Doshisha University, Kyoto, 25-26, 06, 2012.

「国連国際法委員会と国際立法」座長, 国際法学会 2012年度秋季大会, 東京ビッグサイト, 東京都, 2012年10月7日。

“Bioethics in South Korea and its implications towards Asia”座長及び序論報告

“Introduction: Bioethics and Cultural Diversity in Asian Perspectives”, 日本生命倫理学会第 24 回年次大会, 立命館大学, 京都市, 2012 年 10 月 27-28 日。

“Recent ethical and legal issues in assisted reproduction in some Asian countries”, Bioethics: From Theory to Practice, The 6th UNESCO-Kumamoto University Bioethics Roundtable, Kumamoto, 8-10,12,2012.

・政府委員会での報告

「第 4 回欧州委員会生命倫理国際対話 報告：臨床研究及び多施設共同研究における大規模研究と医学データベースのガバナンス」, 第 68 回生命倫理専門調査会, 内閣府, 東京都, 2012 年 7 月 12 日。

「第 9 回 Global Summit of National Bioethics Committees 報告」, 第 69 回生命倫理専門調査会, 内閣府, 東京都, 2012 年 10 月 11 日。

・招待講演

“Large Research and Medical Database in Clinical and Research Multicentre Trials in Japan –Problems and Perspectives–”, 4th European Commission International Dialogue on Bioethics, Copenhagen, 19,06,2012.

「個別化医療時代の生命倫理—ゲノム情報に基づく医療を社会の理解と支持を得て進めるために」, 第 39 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 大阪市, 2012 年 7 月 14 日。

「医療と法—法の考え方」, 京都大学大学院医学研究科予防医療学教室セミナー「医療と法律」, 高島市, 2012 年 7 月 28 日。

「国際社会における秩序変動—NIEO 及び第三次海洋法会議による変動に焦点を当てて」, 第 12 回模擬国連会議関西大会, 神戸国際会議場, 神戸市, 2012 年 8 月 23 日。

「胎児に人権は認められるか—脳血管疾患を持つ女性の妊娠分娩における胎児の地位」, 第 31 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 大阪国際会議場, 2012 年 8 月 25 日。

“Vers un droit universel des sciences et des techniques?”, Université européenne d’été 2012 de l’IHEST, Gréoux-les-Bains, France, 30,08,2012.

“Allocution de bienvenue”, éme Séminaire franco-japonais de droit public, Kyoto, 15,09,2012. “Bioethics Regulations in Japan”, 9th Global Summit of National Bioethics Advisory Bodies, Carthage, Tunisia, 26,09,2012.

“Basic Structure of Ethics Governance of Biobank”, World Medical Association Expert Conference on the Revision of the Declaration of Helsinki, Tokyo, 28,02,2013.

「包括的同意について」, 日本医師会生命倫理懇談会, 東京都, 2013 年 3 月 21 日。

池田啓子

・その他

Co-Executive Editor (with Professor Jordan Sand, Georgetown University), *NCC Online Guide to English-language Publishing for Japanese Scholars*, North American Coordinating Council on Japanese Library Resources.

Collaborator (with Professor Arthur Kleinman, Harvard University), *Global Initiative on Caregiving for the Elderly: A Special Project of Harvard's Asia Center*, Harvard University.

Collaborator and case-writer, *Values and Morals in Business and the Professions in Asia*, a project directed by Professor Arthur Kleinman (Harvard University) and sponsored by China Vanke Corporation and Asia Center, Harvard University.

Editor with "Preface" (171-173), "Proceedings of International Symposium: Pacific Crossings: Cultural Bridges Between Japan and the United States," *An Occasional Supplement to Doshisha American Studies*, no. 18, 170-294, March 2012.

"Forward," *Proceedings of Doshisha American Studies Seminar: The Future of American Power and the American Studies in a Changing World*, *An Occasional Supplement to Doshisha American Studies*, no. 20, 1-2, March 2013.

• 学会発表

"Crossing Borders : Identity Politics in Production and Circulation of Ethnographic Knowledge," in *Transnational Americanist Anthropology*, held in conjunction with the 111th annual meeting of American Anthropological Association, San Francisco, November 17.

• 招待講演・パネリスト等

Invited discussant, Session III "New Leadership in the Region," moderated by Professor Ezra Vogel (Harvard University) at *Harvard Asia Vision 21*, sponsored by Ashe Center, Harvard Kennedy School and Asia Center, Harvard University, held at Harvard Center, Shanghai, China, May 11.

Invited discussant, Breakout Session: "Caregiving for the Elderly," moderated by Professor Arthur Kleinman (Harvard University), at *Harvard Asia Vision 21*, sponsored by Ashe Center, Harvard Kennedy School and Asia Center, Harvard University, held at Harvard Center, Shanghai, China, May 12.

Invited panelist, *International Workshop on Values and Morals in Business and the Professions in Asia*, sponsored by China Vanke Corporation and Asia Center, Harvard University, held at Harvard Center, Shanghai China, May 12.

Invited speaker, "Managing life and death: A Case Study of Moral Conflicts of Professional Care-providers," *International Workshop on Values and Morals in Business and the Professions in Asia*, sponsored by China Vanke Corporation and Asia Center, Harvard University, held at Hyatt Regency Hotel, Kyoto Japan, October 30.

• その他専門分野での活動

Advisory Board of *Comparative American Studies: An International Journal*, SAGE Publication, ISSN 1447-5700.

Planning Committee on *Asian Studies in Asia*, a project of AAS (Association for Asian

Studies) to organize their additional annual meetings in Asia.

International advisory Board of IFUSS (International Forum for U.S. Studies) at University of Illinois, Urbana-Champaign.

今井 ナタニエルアゴラ

・共著

Globalized Poverty and Environment: 21st Century Challenges and Innovative Solutions (with Joseph L. Awange), Hedeilberg Berlin:Springer, 2013.

"Asset-seeking behavior of MNCs and African regional integration," in Munoz J.M.S (ed.), *Handbook on the Geopolitics of Business*, Northampton Massachusetts, Edward Elgar, 2013, pp. 163-175.

・論文

「アフリカの日本型ハイブリッド工場シリーズ：(H)住友化学タンザニア低所得・新興市場への日本企業の進出に関する革新的なビジネス・モデルを考える」『赤門マネジメント・レビュー』（東京大学），2012年11月，pp. 773-778。

「アフリカの日本型ハイブリッド工場シリーズ：(I)ウンガ資料-ケニアにおけるカイゼンの事例研究」『赤門マネジメント・レビュー』（東京大学），2012年11月，pp. 779-784。

・学会活動

「Asian Studies in Africa」"The South-South Exchange Program for Research on the History of Development and the University of Zambia", 2013年11月9-11日，(Chisamba, Zambia)。

・社会活動

「日本のケニアへの開発投資について」コンサルタント2011年より現在に至るまで，ケニア大使館（東京）。

「国際ビジネスコミュニケーショントレーニング」，2012年6-12月（大阪）。

「アフリカの包摂的かつダイナミックな開発」，2013年5月31日，第5回アフリカ開発会議（TICAD V）（横浜）。

K

加藤千洋

・単著

『胡同の記憶 北京夢華録』岩波書店，2012年5月。

・編著

日中ジャーナリスト交流会議編『日中の壁』築地書館，2012年8月，44-53ページ。

天児慧編『日中「歴史の変わり目」を展望する』勁草書房，2013年3月，3-78ページ。

・共著

毛里和子・加藤千洋・美根慶樹『21世紀の中国 政治・社会篇—共産党独裁を揺るがす格差と矛盾の構造』朝日新聞出版，2012年12月，95-181ページ。

姜尚中・一色清・依光隆明・杉田敦・加藤千洋・池内了『「知」の挑戦, 本と新聞の大学 I』, 2013年2月20日, 集英社新書, 139-177 ページ

・その他

「連載紀行ルポ・辣の道」1-7回, 総合文芸誌『こころ』平凡社, Vol. 5-11 で連載。

・学会報告

「中国の新指導部選出と日中関係」, 研究・技術計画学会関西支部, 大阪中央電気倶楽部, 2012年6月12日。

「中国唐辛子回廊 2500 キロ」, 現代中国研究会, 佛教大学四条センター, 2012年6月16日。

・講演等

「中朝関係の虚実」, 朝日カルチャーセンター大阪, 2012年5月11日。

「気になる隣人中国のゆくえ」, 動態政経研究会, 東京プリンスホテル, 2012年7月2日。

『「にほん風景遺産」の現場から』, 朝日カルチャーセンター大阪, 2012年7月6日。

人間文化研究機構(NIHU)主催「日中国交正常40周年記念連続シンポジウム」京都大会, 同志社大学今出川キャンパス, 運営委員長・モデレーター, 2012年9月22日。

「中国共産党と党大会のゆくえ」, 朝日カルチャーセンター新宿, 2012年10月13日。

「記者として見た日中関係40年」, 日中友好協会, 東京・法学館憲法研究所, 2012年11月17日。

独立行政法人中国総合研究センター主催シンポジウム「中国新体制下での日中関係」, 東京イイノホール, 講演・パネル討論モデレーター, 2012年11月29日。朝日カルチャーセンター大阪「中国, 政権交代の動向」, 2012年12月7日。朝日カルチャーセンター横浜『「近未来中国を展望する」2012年12月8日。近畿大学講演会「若者にとっての今後のアジアと日中関係」2013年1月15日。京都ロータリークラブ「習近平時代の中国」2013年1月16日。朝日カルチャーセンター大阪「転換期の日中関係を読む」2013年2月1日。

・社会活動

B S朝日「にほん風景遺産」, 案内人としてレギュラー出演。

テレビ朝日「報道ステーション・サンデー」, 中国・国際問題コメンテーターとして随時出演。

菊池恵介

・講演等

「スカーフ論争—隠れたレイシズム」明治学院大学 国際平和研究所, 明治学院大学白金キャンパス, 2012年11月3日。

M

松久玲子

・その他

「コロンビアの教育」, 「ペルーの教育」, 「ベネズエラの教育」, 「キューバの教育」日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂, 2012年6月。

峯 陽一

・共著

「開発の終わり？(非)目的論的プロセスの思想史」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』(440 ページ)有斐閣, 2012 年 6 月。

東長 靖・石坂晋哉編『講座生存基盤論 6・持続型生存基盤論ハンドブック』京都大学学術出版会, 2012 年(執筆担当項目「生存基盤」「国際関係論」「人間開発」「アフリカ史」「オランダ東インド会社」)。

・その他

(書評)「アビジット・V・バナジー, エスター・デュフロ著(山形浩生訳)『貧乏人の経済学』みすず書房『日本経済新聞』, 2012 年 5 月 27 日。

(書評)「川端正久・落合雄彦編『アフリカと世界』晃洋書房『世界経済評論』, 2012 年 9/10 月号。

(エッセイ)「壁を越える」(巻頭言)『アジ研ワールドトレンド』, 2012 年 11 月号。

(エッセイ)「深刻な格差を前に試される南アフリカ社会の統合」『世界』, 2012 年 11 月号。

(報告)“Arthur Lewis in Ghana, 1957-8: The Peasant Path of Post-Colonial Development Reconsidered”, Historical Origins of Developmentalism: Asian and African Experiences Compared (Session Chair: Yoichi Mine), XVIth World Economic History Congress, University of Stellenbosch, 12 July, 2012.

(エッセイ)「『アフリカにおけるアジア』ワークショップ」JOINT (トヨタ財団広報誌) No. 11, 2013 年 1 月。

(書評)「ロバート・C・アレン(グローバル経済史研究会訳)『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版『日本経済新聞』, 2013 年 2 月 3 日。

・基調講演

“Preventing Violent Conflicts in Africa”, Preventing Violent Conflicts in Africa: JICA Symposium, Iwasaki Koyata Memorial Hall, The International House of Japan, 26 July, 2012.

N

内藤正典

・単著

『イスラームから世界を見る』筑摩書房, 2012 年 8 月, 239 ページ。

・論文

「中東変動の展望—「アラブの春」はイスラーム主義者にハイジャックされたのか」『中東研究』第 514 号, 2012 年 6 月, 7-13 ページ。

「中東の政治変動とトルコ」『海外事情』, 2012 年 9 月号, 2-15 ページ。

・その他

「非対称な戦争の新たな展開—預言者ムハンマド侮辱動画と騒乱」『世界』No.836, 2012

年 11 月, 20-24 ページ。

「中東地図を塗り替える？シリアとトルコ」e-world, 2012 年 10 月 24 日号, 時事通信社(web 版)。

「アフガン和平, 京都から一歩」朝日新聞, 2012 年 7 月 11 日関西版夕刊。

・講演

『アラブの春』のゆくえ—欧米の期待と民衆の期待の違い」(財)兵庫倶楽部, 2012 年 4 月 20 日。

『アラブの春』から『中東の嵐』へ—最新の中東情勢を読み解く鍵」, 京たなべヒューマンカレッジ, 同志社大学・京田辺市主催, 2012 年 5 月 19 日。

Orta Doğu'daki Siyasi Değişiminin Geleceği: “Arap Baharı” İslamcılar tarafından sabote mi edilmiş?, International Interdisciplinary Social Inquiry Conference - IISIC 2012(基調講演), ウルダール大学, トルコ, 2012 年 6 月 20 日。

International Interdisciplinary Social Inquiry Conference 「Orta Doğu'daki Siyasi Değişiminin Geleceği, Arap Baharı İslamcılar tarafından Sabote mi Edilmiş?」(招待講演), Uludag University, Bursa, Turkey, 2012 年 7 月 19 日。

Global Leadership Development Program II 講義 花王本社「Islamic World : What should be known?」, 2012 年 8 月 29 日。

「イスラームとは何か?—グローバル社会におけるムスリムとの共存の方法」グループリベラルアーツ研修講義(東芝青梅事業所), 2012 年 9 月 12 日。

「イスラームと世俗主義—共約不可能性から共生への模索」同志社大学—神教学際研究センター主催シンポジウム, 2012 年 9 月 15 日。

「イスラーム社会を考える—「アラブの春」と中東民主化のゆくえ」人事院公務員研修所, 行政研修(課長級), 2012 年 10 月 17 日。

「中東の地図が変わるのか?—「アラブの春」は将来の中東に何をもたらすのか?」日本トルコ文化交流会, 2012 年 10 月 30 日。

「民主化を達成したトルコの憂鬱」JETRO, 2012 年 10 月 31 日。

「中東の変動と再イスラーム化—民主化の一モデルとしてのトルコ」(財)日本エネルギー経済研究所, 中東研究センター主催「2012 年度国際シンポジウム」(基調講演), 2012 年 11 月 16 日。

「中東民主化と再イスラーム化」在エジプト日本大使館広報文化センター(招待講演), カイロ, 2013 年 2 月 6 日。

「いま, 中東・イスラーム世界で起きていることを, どうとらえるか」水霜談話会例会(招待講演), 如水会館, 2013 年 3 月 5 日。

「イスラームとの対話—グローバル社会におけるムスリムとの共存方法」(招待講演), 青山学院大学宗教委員研修会。講演 1・「イスラームについて包括的な内容。誤った認識, 誤解を解く」。講演 2・「イスラームについて我々学内の教員・学生がどのような理解と配慮が必要か」, 2013 年 3 月 6 日。

「アルジェリア人質事件の背景にあるもの」京都工業会, 2013 年 3 月 19 日。

・テレビ出演

「シリア, 統治の構図」, NHK『視点・論点』, 2012年4月16日。

「エジプトの決断」, NHKBS-1 ワールド Wave モーニング, 2012年6月14日。

「タリバンとアメリカ, 秘密協議の内幕」, NHK『クローズアップ現代』, 2012年9月6日。

「反イスラム動画と暴動」, NHK『視点・論点』, 2012年10月4日。

「アルジェリア事件から見えるもの」, NHK『視点・論点』, 2013年2月4日。

・ラジオ出演

「シリア内戦」, 『ラジオジャーナル』, NHK 第一放送, 2012年4月20日。

「混迷するシリア情勢」, 『ラジオジャーナル』, NHK 第一放送, 2012年7月20日。

「アルジェリア人質事件」, おはようパーソナリティ道上洋三です, 朝日放送ラジオ, 2013年1月23日。

「アルジェリア人質事件」, 『ラジオジャーナル』, NHK 第一放送, 2013年1月25日。

中西久枝

・共著

「9.11 後のイランの安全保障政策—中東域内外交と内政のニュアンス」吉川元・中村覚編『中東の予防外交』信山社, 2012年, pp. 175-213。

・論文

「イラン・シリア関係の推移と今後のシリア情勢」『中東研究』No. 516, 2013年, pp. 27-33。

「中東の民主化プロセスにおけるイスラーム主義と政治モデルの考察: エジプトの新憲法を事例に」『同志社グローバル・スタディーズ』, 2013年, pp. 3-22(査読有)。

・その他

Hisae Nakanishi & Elisa Montiel-Welti (eds). International Conference on Conflict Prevention in the Middle East, November 7-8, 2012 (Conference Proceedings) 52pp.

・学会発表

“Nuclear Impasse of Iran and Its Impact on the Persian Gulf Security,” International Conference on Conflict Prevention in the Middle East: Searching for Alternative Ways, イスタンブール旧日本領事館, 2012年11月9日。

“Keynote Speech: Conflict Mitigation in the Middle East,” International Conference of Peace and Security in the Middle East: Alternative Ways to Democratization, February 16, 2013.

0

荻野美穂

・単著

『中絶論争とアメリカ社会』(岩波人文書セレクション版)岩波書店, 2012年10月, 本文298ページ+注・文献目録等62ページ。

・共著

「ジェンダー・スタディーズのインパクト」木村涼子・伊田久美子・熊安喜美江編『よく

わかるジェンダー・スタディーズ—人文社会科学から自然科学まで』ミネルヴァ書房, 2013年3月, 10-13 ページ。

・講演等

「女性の選択肢は広がったのか—生殖技術と女性の身体」大阪府立大学女性学研究センター・女性学講演会, 2012年12月2日, 大阪府立ドーン・センター。

“Abortion and Family Planning in Post-World War II Japan,” Joint Seminar on Reproduction in Asia: Impacts of Modernization on Local Culture and Women’s Health, Gadjah Mada University, Yogyakarta, Indonesia, January 12-13, 2013.

岡野八代

・単著

『フェミニズムの政治学—ケアの倫理からグローバルな社会へ』みすず書房, 2012年1月, 448 ページ。

・共著

「修復的正義—国民基金が閉ざした未来」志水紀代子・山下英愛編『「慰安婦」問題の解決に向けて—開かれた議論のために』白澤社, 2012年9月, 73-96 ページ。

「ケアの倫理とコンフリクトの政治」牟田和恵編『競合するジャスティス—ローカリティ・伝統・ジェンダー』大阪大学出版会, 2012年4月, 313-338 ページ。

“Chap.7 Reconciliation over Past Sexual Slavery in Japan: The Case of the Comfort Women,” Muta Kazue and Beverley Anne Yamamoto (eds.), *The Gender Politics of War Memory: Asia-Pacific and Beyond*, Osaka: Osaka University Press, 2012: pp.157-175.

「ケアの倫理と法—合衆国の同性婚論争における平等概念を中心に」ジェンダー法学会編『講座・ジェンダーと法<第1巻> ジェンダー法学のインパクト』日本加除出版, 2012年12月, 103-117 ページ。

・その他

A Comment on Professor Irving's Paper, "Gender and Constitutional Citizenship: Combining Historical, Theoretical and Doctorinal Perspectives," *GEMC Journal*, No. 6: 48-54, 2012, March.

(コラム)「災害における安全と安心」直江清隆・越智貢編『高校倫理からの哲学別巻 災害に向き合う』岩波書店, 2012年7月, 211-219 ページ。

(書評)「キャサリン・マッキノン著『女の生, 男の法(上)(下)』」『ジェンダーと法』No. 9, 2012年7月, 150-151 ページ。

(エッセイ)「現代の正義論—正義は, 社会で「正しい」と思われていることなのだろうか」直江清隆・越智貢編『高校倫理からの哲学 3 正義とは』岩波書店, 2012年8月, 179-191 ページ。

・講演等

「戦時性暴力から考える女性への差別—日本軍「慰安婦」問題を中心に」長岡京市女性交流支援センター(講演), 2012年6月12日。

「雇用崩壊とジェンダー」日本学術会議(司会), 2012年10月13日。

Moderator of Session8: Sexuality and Gender, GRADUATE STUDENT ACTIVITY,
2012 International Conference on Law and Society(司会), June 6, 2012.

「ジェンダー・平和・安全保障」立命館大学(科研費基盤研究(B)「バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー」, コメント), 2012年11月3日。

太田 修

・共著

「序文」 「戦時期大邱の朝鮮人女子学生の学校生活－1937年の日記から」 韓哲昊・原田敬一・金信在・太田修『植民地朝鮮の日常を問う』思文閣出版, 2012年12月20日, 9-16, 198-288, 298-299 ページ。

「두 개의 강화조약에서의 식민지주의와 한일’ 청구권’」 오타 오사무, 도시환, 이장희, 나가하라 요코, 김창록, 박배근 『한일협정 50 년사의 재조명-한일협정체제와 ‘식민지’ 책임의 재조명-』 동북아역사재단, 2012년 12월 10일, 9-37 쪽(「二つの講和条約における植民地主義と韓日‘請求権’」太田修・トシファン・イジャンヒ・永原陽子・金昌祿・パクペグン『韓日協定 50 年史の再照明Ⅱ－韓日協定体制と‘植民地’責任の再照明－』東北アジア歴史財団, 2012年12月10日, 9-37 ページ)。

「일본에서 본 ‘4 월혁명’」 고려대한국사연구소 허은편 『정의와 행동 그리고 4 월혁명의 기억』 선인, 2012년 4월 30일, 253-278 쪽(「日本から見た「4 月革命」」高麗大韓国史研究所 許殷編『正義と行動,そして4月革命』先人, 2012年4月30日, 253-278 ページ)。

・学術論文

「해방직후 어느 노동자의 일상생활-인천의 전기공 I 씨의 일기로부터-」 『민족문화연구』 제 57 호, 2012. 12. 31, 305-348 쪽, 고려대학교 민족문화연구원(「解放直後のある労働者の日常生活－仁川の電気工 I 氏の日記から」『民族文化研究』第 57 号, 2012 年 12 月 31 日, 305-348 ページ, 高麗大大学校民族文化研究院)。

「식민지주의의 ‘공범’: 두 개의 강화조약에서 초기 한일교섭으로」 『아세아연구』 150 호(제 55 권 4 호), 2012. 12. 30, 18-54, 317-319 쪽, 고려대학교 아세아문제연구소(「植民地主義の「共犯」: 二つの講和条約から初期韓日交渉へ」『亜細亞研究』150 号<第 55 卷 4 号>, 2012 年 12 月 30 日, 18-54, 317-319 ページ, 高麗大大学校亜細亞問題研究所)。

・その他

「隠す権力, 見る権利－日韓会談文書訴訟 10・11 開示判決について」 『インパクション』 188 号, 2013 年 1 月 25 日, 5-8 ページ。

「日韓会談文書 東京地裁が開示を命令」 『女たちの 21 世紀』 72 号, 2012 年 12 月 14 日, 51 ページ。

「植民地支配・戦争被害は日韓請求権協定では解決せず」 『日韓会談文書・全面公開を求める会会報』 第 32 号, 2012 年 8 月 2 日, 4 ページ。

「朝鮮人, 韓国人, コリアン?」 雨宮剛編著 『もう一つの強制連行 謎の農耕勤務隊－足元からの検証』 2012 年 5 月, 452-453 ページ。

・学会報告

<書評>和田春樹『北朝鮮現代史』(岩波書店, 2012年), 朝鮮史研究会関西支部 2月例会, 大阪河合塾中津センター8階会議室, 2013年2月23日。

「식민지주의의 ‘공범’-두 개의 강화조약에서 초기 한일교섭으로」(「植民地主義の「今日は」-二つの講和条約から初期韓日交渉へ」), 「고려대학교 아세아문제연구소 한일관계 국제심포지움 한일관계를 되묻는다-해방인가 분리인가, 가지무라 히데키와 한반도」(「高麗大学校亜細亜問題研究所韓日関係国際シンポジウム 韓日関係を問いなおす-解放か分離か, 梶村秀樹と韓半島」), 主催: 高麗大学校亜細亜問題研究所, JSPS 経済協力の起源プロジェクト, 高麗大学校亜細亜問題研究所 3階大会議室(ソウル), 2012年9月13日。

「두 개의 강화조약에서의 식민지주의와 한일 ‘청구권’ 문제」(「二つの講和条約における植民地主義と日韓「請求権」問題」), 「한일협정 50년사의 재조명 국제학술회의-한일협정체제와 식민지 책임의 재조명」(「韓日協定 50年史の再照明国際学術会議-韓日協定体制と「植民地」責任の再照明」), 主催: 東北亜歴史財団, 東北亜歴史財団大会議室(ソウル), 2012年6月22日。

「해방직후 어느 노동자의 일상생활-인천의 전기공 I 씨의 일기로부터」(「解放直後ある労働者の日常生活-仁川の電気工のI氏の日記から」), 「일기를 통해 본 전통과 근대, 식민지와 국가」(日記を通して見た伝統と近代, 植民地と国家), 主催: 고려대학교 민족문화연구원 HK 한국문화연구원 ‘개인의 전통과 근대’ 기획연구팀(高麗大学校民族文化研究院 HK 韓国文化研究団), 場所: 고려대학교 백주년기념관 국제원격회의실(高麗大学校百周年記念館国際遠隔会議室)(ソウル), 2012年6月8-9日。

・講演等

「日韓会談研究の現状と課題-「請求権」問題を中心に」, 第6回強制動員真相究明全国研究集会, 東京大学駒場キャンパス 18号館ホール, 2013年3月30日。

“Contemporary Japanese society and the Writing of Korean Modern History”, 主催: UCLA Center for Korean Studies, 場所: UCLA International Institute Asia Institute Center for Korean Studies, 2013.3.5.

「日韓条約締結後の在韓被爆者問題における「過去清算」運動-平岡敬関係文書を手がかりに」, 東アジア地域史研究会, 学習院大学東2号館8階会議室, 2013年1月27日。

「日朝国交正常化と過去清算」, 2012年度同志社大学日朝関係史講座(主催: 同志社大学 KOREA 文化研究会), 同志社大学至誠館 S1, 2012年11月9日。

「植民地支配・戦争被害は日韓請求権協定では解決せず」, 「公開シンポジウム 戦後補償問題は本当に日韓請求権協定で解決したのか」(主催: 日韓会談文書全面公開を求める会), 東京都港区勤労福祉会館, 2012年7月14日。

「2012年, 朝鮮半島と日本-歴史から考える」, 「京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ」(主催: 京たなべ市・京たなべ市教育委員会・同志社大学), 同志社大学京田辺校地恵道館 201教室, 2012年9月29日。

「日朝国交正常化と過去清算」, 2012年度同志社大学日朝関係史講座(主催: 同志社大学 KOREA 文化研究会), 同志社大学至誠館 S1, 2012年11月9日。

小山田英治

・論文

"Decentralization and Inclusive Governance: Experiences from the Philippines and Indonesia" (with Wildred Carada), *Journal of Global Studies*, Vol.3, Doshisha University, pp.23-50.

・学会報告

「汚職撲滅を阻む要因と促進する要因」, 第23回国際開発学会(神戸大学), 2012年12月2日。

・講演等

小山田英治(アドバイザー)三菱総合研究所編「国際緊急援助隊の評価(第三者評価)報告書」(外務省委託調査業務), 2013年3月。

"Transparency and Accountability in Local Government: Has it been successful?" International Seminar: Academe, National and Local Authorities Alliance in Strengthening Decentralization and Local Government, Hassanudin University, Makassar, Indonesia, March 6, 2013.

"Countermeasures against corruption," Lecture, Seminar on Public Personnel Administration for Middle Level Officials, National Personnel Agency, JICA(東京) February 18, 2013.

"Global Anti-Corruption Movement and Anti-Corruption Program," Lecture, Training Program on Prevention of Corruption in Tunisia, JICA(東京), January 6, 2012

「開発途上国上級国家行政セミナー」, コーディネーター兼講師, 人事院・国際協力機構(東京), 2012年11月1-16日。

「開発と法: 世界銀行の新たな挑戦」, パネリスト, 東京大学「人間の安全保障シンポジウム」(東京大学), 2012年10月11日。

「開発とは何」, 基調講演, 第12回模擬国連会議関西大会(神戸), 2012年7月23日。

"Promoting Good Governance and Corruption Control", Guest Lecture, Government of Tunisia (Tunis), June 26, 2012.

S

佐々木 隆

・その他

(事典記事)「美術」, 「ノーマン・ロックウェル」 亀井俊介他監修 新版『アメリカを知る事典』平凡社, 2012年。

(エッセイ)「ハブル先生と日本」月刊詩誌『柵』306, 詩画工房, 2012年6月。

銭 鷗

・共著

「グローバリゼーションの中の日本」, 同志社大学グローバル地域文化学部編『グローバル地域文化学』晃洋書房, 2013年3月, pp. 163-174。

・口頭発表

「關於王國維的譯作『勢力不滅論』」, 桃の会, 京都大学楽友会館, 2013年3月。

T

富山一郎

・論文

「戒厳令について—関東大震災を想起するということ」(ハングル)『日本批評』第7号, ソウル大学日本研究所, 2012年8月15日, pp. 80-113。

「巻き込まれるということ」(ハングル)『R』Vol.4, 韓国<スユ+ノモ>研究所, 2012年11月10日, pp. 16-28。

「沖縄をめぐる危機の文化について」『翰林日本学』21号, 翰林大学, 2012年12月25日, pp. 1-21。

「沖縄戦トラウマと冷戦」(ハングル)『韓国学研究』28号, 韓国仁荷大学韓国学研究所, 2012年10月15日, pp. 81-97。

・その他

「戦友という問い」『インパクション』185号, 2012年6月, pp. 219-224。

「沖縄戦トラウマと記憶」仁荷大学・北東亜歴史財団, 仁荷大学(韓国), 2012年7月12日。

「人々の移動と帝国の不安」翰林大・国際交流基金, 翰林大(韓国), 2012年10月26日。

W

Fanon Che Wilkins

・その他

"Respect the Shooter: Shawn Peters":

<http://lifeandtimes.com, respect-the-shooter-shawn-peters>, July 2, 2012.

“Dispelling the Romance with Armed Struggle: Owusu Saduaki and FRELIMO Guerillas in ‘Liberated Mozambique,’ 1971,” at the American Studies Association, November 15, 2012.